

[みとの移住定住情報マガジン]

MITONOTE

みとで働く×みとの暮らし



Online
Magazine

2022

ようこそ。新しい「ミトノート」へ

これからの時代に求められる、「働く場」と「暮らしの場」の良好な関係性。
水戸に移住し、自分らしく働き、しなやかに暮らす人たちをご紹介します。

今、自分らしい「働き方×暮らし方」を実現できる場として、地方都市が大きな注目を集めています。茨城県の県都であるここ水戸市には、周辺地域を含めて理想的な「まち暮らし×田舎暮らし」を実現できる要素が備わっています。そこで地域としなやかに関わり合いながら、多様で個性あふれる「働き方×暮らし方」を実践している人たちが増えていきます。ここでは、そんな「水戸の魅力びと」の暮らしぶりについてご紹介していきます。

CONTENTS

[創業・家業継承] × [子育て]

vol.1

水戸に戻ったからこそ実現した、和菓子カフェと育児の
両立。職住一体の、愛にあふれる理想の暮らし

にいつま hanare 店主
新妻^{ゆうすけ}優友さん

[ライフワーク] × [まちづくり]

vol.2

古いものと新しいもの、
それらが共存することで生まれる水戸ならではの魅力

株式会社大山都市建築設計 勤務
岩間夏希さん

[モノづくり] × [教育] × [子育て]

vol.3

クラフト作家と美術教師。水戸の刺激ある芸術環境の中
で人とのつながりを紡ぐ喜び

クラフト作家・美術教師
片口亜希子さん

Infomation

水戸市の移住支援

MITONOTE

みとで働く、みとの暮らし

水戸に戻ったからこそ実現した、 和菓子カフェと育児の両立。 職住一体の、愛にあふれる理想の暮らし

にいつま hanare 店主

新妻 優友 さん



vol.1

老舗和菓子店の3代目として 東京都内からUターン

僕は、水戸市郊外にある和菓子店「菓匠にいつま」（水戸市堀町）の3代目です。父が営む本店の和菓子づくりを担当しながら、本店から数十メートルほどのところに、「菓匠にいつま hanare（はなれ）」という自身の和菓子カフェを営んでいます。

hanareのコンセプトは、「伝統的な和菓子をもダンな環境の中で提供すること」です。木と大谷石で仕上げたシンプルな空間の中で季節ごとに変わる光や風を感じながら、店自慢の焼きたての銅鑪^{どら}焼きや、昔ながらの和菓子、上生菓子などをゆっくり味わっていただ

MITONOTE

みとで働く、みとの暮らし

く——他にあまり例のないスタイルからか、お陰さまで週末には県外からもたくさんのお客様にいらしていただけるようになりました。

僕は、高校までずっと水戸で過ごしました。高校卒業後は、とにかく東京で暮らしてみたいという一心で、都内にある製菓専門学校を選び、和菓子専攻科に進みました。

ただ、それまで両親には一度も店を継ぐように言われたことがなく、僕自身も本気で和菓子職人になることを考えたこともなかったので、専門学校に通いながらも、都心にあるセレクトショップに併設されたモダンなカフェでのアルバイトに夢中になり、卒業後もその会社でそのまま社員として働くつもりでいました。

ところが、卒業を間近に控えたころ、初めて父の強い反対にあいました。「卒業後は、まず和菓子をやるべき。カフェはそのあとでもできるが、和菓子の修行は今しかできないから」と、珍しく父が繰り返し説得にかかるので、僕もさすがに考えを改め、まずは和菓子職人としての修行を積もうと、京橋にある「桃六」という老舗和菓子店に就職しました。

桃六は「その日つくったものをその日のうちに売りきる」という、当たり前だけれど



「菓匠にいつま」本店の工場。中央が初代店主の新妻安則さん、左が2代目店主の則夫さん、右が3代目でhanare店主の優友さん。

なかなかできない姿勢を貫いている店です。焼きたての銅鑪焼きを提供するという今のhanareのスタイルも、桃六時代に毎日銅鑪焼きをつくり続け、焼きたてのおいしさを味わった経験から思いついたものです。

やがて、都内で働きながら、実家が忙しいときには、週末に水戸に戻って実家の和菓子づくりを手伝うようになりました。そんなふうに都内と水戸を行き来しているうち、徐々に自分の中に、「和菓子を通じて自分ならではの世界観を表現する空間を持ちたい」という想いが募り始めました。

桃六での3年半の修行期間を経て、僕は故郷の水戸に戻ることにしました。

伝統の和菓子をモダンなスタイルで提供 求めるイメージの実現のために帰省を決意

水戸に戻ることを決めた一番の理由は、都内で妥協した条件下で無理をしながら店を持つよりも、水戸に戻って環境や地域ならではの利点を存分に生かし、都内の人をも惹きつ



人気の銅鑪焼きは、焼きたてで提供するのがhanareのスタイル。曲げわっぱの盆に乗ると、銅鑪焼きもすっかりモダンな印象に。

けるような魅力ある店舗づくりに挑戦してみたいと思ったからです。

ちょうど本店の数十メートル先に、公園に隣接するうってつけの土地が空いたので、そこを思い切って購入し、店舗兼住居を新築する決心をしました。

実はhanareには、僕のほかにもうひとり和菓子職人がいます。専門学校の同級生だった高橋若菜です。都内の老舗和菓子店に7年間勤めていた彼女に、僕がhanareのコンセプトを伝えると、とても共感してくれ、彼女自身の次のキャリアを築く地として躊躇なく水戸を選んでくれました。

高橋は今、hanareで得意の上生菓子づくりの腕を発揮し、毎週2種類の新しい菓子の創作を続けています。彼女の上生菓子を求めて、毎週店に足を運んでくださる方も少なくありません。彼女自身も、単に曆を追いかけて和菓子をつくるのではなく、季節ごとの自然の変化に触れ、それを菓子で表現できることに大いに喜びを感じているようです。



上生菓子を作る高橋さんは水戸に移住して1年。暮らしの中で感じる四季の風景を和菓子の創作にも生かしている。充実した「働く」と「暮らし」を実践中。



店の奥には座敷席がある。これは、小さなお子さん連れの方にも安心してくつろいでもらえるようにと、優友さんの妻・璃香さん（写真左）の提案で設けられたもの。

かけがえのない家族との時間は、 職住一体を実現できたからこそ

今、僕は、妻と1歳になる娘の3人で、店舗の上階にある住居で暮らしています。職住一体のため、幼い娘の成長を日々間近でずっと見ていられることが、今の僕にとって何よりの幸せです。ですから、妻と同じくらい、育児にも積極的に関わっています。娘と僕の2人で「わんぱーく・みと」などの子育て支援施設に出かけることもよくあります。周りはママばかりで最初は少し緊張しましたが、今ではまったく平気です。むしろ、そこで家とは異なる娘の表情、成長した姿を目にできることを、心から楽しんでます。

中学の同級生だった妻は、看護師をしています。今は育休を取得していて、子育てをしながら店での接客やSNSの発信などに積極的に関わってくれています。彼女も店での仕事を楽しんでいるようですし、互いに子育てをしながら、ともに店に関わっていくという今のライフスタイルは、水戸に戻ってこそ実現できたと思っています。

休みの日には、家族3人で大塚池公園や千波公園にピクニックセットを持って出かけ、水辺の自然を満喫しています。この時間が、自然の中で心をほだきながら家族との絆を深められる、僕にとって大切な時間です。

水戸にはよいところがたくさんあります。豊かな自然、歴史と伝統、そしてモダンなカルチャー。センスのよい店もいろいろあって、魅力ある店主仲間との緊密な絆を築くこともできています。自分の店を持って思うことは、そんな水戸のよさをもっと多くの人に伝えていきたいということです。

欲をいえば、水戸では各スポットが点在しているので、もう少し線としてつながるとまちとしての魅力がっそう増すように思います。

例えば、hanareの周り2〜3km圏内に個性ある店が集まって、歩いて回れるエリアが形成できたら、市外、県外から足を運んでいただくお客さまに水戸のよさがもっと伝わるだろうと思います。

そんなイメージを少しずつ具現化できるよう、これからも水戸で自分にできることに思い切りチャレンジしていきたいと思っています。



休みの日には、家族3人で大塚池公園や千波公園によく出かけるという。水辺の自然豊かな環境の中で家族水入らずで過ごすこの時間を大切にしていると話す。

MITONOTE

みとで働く、みとの暮らし



菓匠にいつま hanare

<https://www.niituma.com/hanare/>

Instagram : @kasyou_niituma

Q&A

Q1 水戸市内でお気に入りの場所を教えてください

水戸芸術館周りです。下市エリアの川沿いも雰囲気があって好きな場所の一つです。

Q2 水戸市で生活する中で、便利だと感じることは？

どこへ行くにもアクセスがよいことです。都内はもちろん、高速道路を利用すれば、東北地方や長野、群馬、栃木にも行きやすく、山や川、海遊びも存分に楽しめます。テレワークが推奨されている昨今、都内で仕事されている方にもお勧めです。

Q3 移住を考えている人にお勧めしたい水戸市のよさは？

2021年に娘が生まれて、風通しのよいきれいな公園が近くにあることをとても幸せに感じています。子育て支援サービスも充実しているので、安心して子育てをできることが魅力の一つだと思います。

古いものと新しいもの、 それらが共存することで生まれる 水戸ならではの魅力

株式会社大山都市建築設計 勤務

岩間 夏希 さん

vol.2

長野、東京でのまちづくり経験を経て 水戸へとUターン

私は、建築設計士で、現在は水戸市内の建築事務所に勤務しています。高校まで水戸で過ごしたあと、長野県の大学に進み、そこでまちを盛り上げるイベントやまちづくりの仕掛けを企画する人たちとたくさん出会いました。当時参加していた「まちの教室」は、地域に住む人が生徒となって、県内外から面白い人を講師として招き授業を行う、“おばあちゃんの知恵袋”のようなものを伝える教室でした。この取組が私にとって初めての地域活動で、「そのまちに住む人たちと楽しく暮らす」ことの意義を学ばせていただいた貴重な

MITONOTE

みとで働く、みとの暮らし

体験になりました。その後、リノベーションを通じてまちづくりを推進する東京の会社に就職し、全国のさまざまな地域に飛び込んで、まちの魅力探しや新規にプロジェクトを始める人のお手伝いなど、まちづくりに関わる経験を積んできました。

水戸に戻ってきたのは、家族が病気になったことが直接の理由でした。かなり後ろ髪をひかれながらも退社して、2017年の7月から再び水戸での生活を始めました。

幸い、縁あって現在勤めている建築事務所でも、これまでの私のまちづくりに関する活動を生かすことができている。所長の大山さん自身が水戸のまちを盛り上げたいという想いを強く持っている人で、共感する部分が多いです。家族との時間をとても大切にしている人でもあり、スタッフにも多様で柔軟な働く環境を積極的に提案してくれます。

今は、この事務所で仕事として学校や店舗、アウトドア施設などの設計業務に携わっています。一方で、自分自身のライフワークとして、「水戸まちなかりビング作戦」といったまちづくりプロジェクトにスタッフとして参加し、自分自身がこれから水戸のまちづくりにどのように関わっていけるかを模索しているところです。



勤務する建築事務所で、所長の大山^{きつぎ}早嗣さんと打合せ中の岩間さん。「これまでの経験を生かせる、やりがいのある職場にいる喜びを感じています」と語る。

カメラを持ってまちを歩きながら、 かつての人々の営みに想いを馳せる

もともと写真を撮ることが趣味なので、休日にはよくカメラを携えて水戸のまちを散策しています。水戸には昔ながらの街並みが残っているところも多く、江戸時代の水戸藩の人たちの営みに想いを馳せながら歩いたり、商店街の中に大正時代から続くような古い建物を見つけて、当時の人々の考えや暮らしの跡が残るモノを写真におさめたりしています。

一方で、現代的に整備された施設も水戸には多くあります。なかでも「トランジットフォークス」（水戸市酒門町）は最近の一番のお気に入りスポットです。レストランやベーカリー、コーヒースタンド、アパレル、ヘアサロンにエステまで、こだわりを持った店舗が集まっている複合施設で、毎回行くのがとても楽しみです。

こうして改めて見てみると、古いものと新しいもののバランスがうまく取れているところが、水戸らしさなのかもしれないと感じます。



下市地区は心躍る発見が多いという。その時代の営みや想い、手仕事の魅力などを写真に記録し、後世につないでいくことをライフワークとしている岩間さん。



6つの店舗が揃う「トランジット フォークス」内の「THE FLYER BAKERY」。店頭に並ぶのは見本で、注文すると厨房から商品を運んでくれるユニークなスタイル。

川のせせらぎと水鳥のさえずり 千波湖畔の住まいは理想への第一歩

そして、なんといっても水戸の魅力は、千波湖を中心とする千波公園抜きには語れないと思います。私は主人と——水戸に戻ってきてから知り合い、結婚したのですが——千波湖の畔^{ほとり}で暮らしています。窓の外には緑が広がり、すぐ目の前に小川が流れていて、いつでも水の流れる音や水鳥の鳴き声が聞こえるような環境。建築設計士として思い描く私の理想の暮らし方は、外にある自然と家の内部の境目がないようなスタイルです。今の住まいで暮らし始めてから、理想に向けての一步を踏み出せたような気持ちでいます。

主人は毎日電車で日立市まで通勤しているので、水戸駅まで20分ほどかけて川沿いを歩いています。桜並木や水鳥が戯れる姿に日々癒されるとよく話してくれます。

私も仕事の合間や休みの日に、千波湖の周囲をよく散策しています。季節によって異なる草木の表情を観察しながら、ジョギングやウォーキングを楽しむ人たち、子ども連れの



休みの日には、夫婦で住まいの近くにある千波公園まで足を伸ばす。ジョギングをしたり、ランチを楽しんだりする時間が、心と体に最高の休息をもたらす。

家族など、まちに暮らす人たちが千波湖のまわりで思い思いに過ごす姿を見ることがとても楽しいですし、気分がとてもリフレッシュします。時折ボランティアの方々がゴミ拾いをしている姿を見ると、ここに暮らす人たちみんながこの美しい風景を守っていることを感じて、嬉しい気持ちになります。

休みが合えば、主人と一緒に散歩やジョギングを楽しみ、天気がいい日はランチをテイクアウトして食べることもあります。桜の季節に花吹雪の下で過ごす時間は、もう最高です。

少々ぶっきらぼうなのはご愛敬 面白くて情に厚いのが水戸のまち

これまで私は、水戸、長野、東京と、それぞれに異なる特徴を持つまちに住んできました。地方都市として長野と水戸を比べてみると、長野は移住者に対してとてもフレンドリーな印象があるのに対して、水戸はちょっと語気が強い分、人によっては少し壁のようなもの

を感じるかもしれません。でも、水戸の人たちって、話してみるとすごく面白い人が多いのです。一度顔見知りになると、情に厚く、面倒見のよい方が多いです。ちょっと言葉がぶっきらぼうに感じられても、それを面白い個性として楽しんでもらえたら、水戸の奥深い魅力に気づきやすくなると思います。

水戸に来たら、まずは、水戸の真ん中にある千波湖周辺から歩いてみてもらいたいです。そのほかにも歴史ある場所から新設のモダンなスポットまで、魅力ある場所がたくさんありますから、ぜひご自分の足で歩いて、お気に入りの場所をたくさんみつけてもらいたいです。

つい先日、初夏に紫陽花が咲き競うことで知られる「保和苑」近くの空きビルを、地域の人たちと一緒にリノベーションして学びや交流の場をつくる「23rd Studio」という活動のお手伝いに参加してきました。市職員や保和苑の運営に関わる人、近隣住民や地域に根差す祭りの関係者の皆さんが集まって、まちぐるみで交流の場づくりが進んでいる様子に心動かされます。私自身の学びを深めていきながら、このようなまちづくり、仕掛けづくりに今後も積極的に参加していきたいと思っています。



下市商店街を散策している途中に、店主から声をかけられ、その地の歴史について話を聞くことも。その地に住む人たちとの交流も、散策の楽しみのひとつだ。

MITONOTE

みとで働く、みとの暮らし



Instagram : @nasupic_

Q&A

Q1 水戸市で生活する中で、便利だと感じることは？

程よく都会で、程よく田舎なところですよ。比較的何でも揃うだけの商店・公共施設があり交通の便もよい一方で、のどかな自然も近くにあって広大な散歩道が入り組んでいる。こういうまちってなかなかいいと思います。「働く」も「暮らす」も境目をつくらずにいられるし、このどちらにも偏っていないバランス感がよくとても暮らしやすいと感じています。

Q2 水戸市へ移住したい方へのアドバイスがあれば教えてください

車がなくても十分楽しめます。千波湖・偕楽園、美術館、図書館、音楽ホール等、日常的に芸術や文化、自然に触れることのできるスポットがたくさんあって、それだけで生活が豊かになります。暮らす中で、じんわりと豊かさを感じるような、そんなまちです。「日常の“楽しみしろ”」をぜひ水戸に住んで感じていただきたいです。

クラフト作家と美術教師。 水戸の刺激ある芸術環境の中で 人とのつながりを紡ぐ喜び

クラフト作家・美術教師
片口亜希子さん

vol.3

生まれ故郷の下関から大学進学を機に大阪へ 大阪での教員生活を経て、水戸へ移住

私は、水戸でビーズ刺繍や陶器をあしらったアクセサリーを制作しているクラフト作家です。茨城大学で美術を教えている夫と小学生の女の子2人の4人家族です。

出身は、山口県の下関です。高校までを下関で過ごし、その後、大阪の芸術大学に進学し、大学院まで含めて6年間、金属工芸を学びました。大学院を出た後は、アーティストとしてやっていくことも夢見ましたが、その一方で、大学で初めて体験した美術に没頭できる環境——美術の教育現場というものに非常に魅せられ、大阪成蹊女子高等学校の美術

コースの教師になる道を選びました。その学校で絵画担当の教師をしていた今の夫と出会いました。彼が茨城大学の美術科に准教授として赴任することになり、大阪を離れて私は全く縁もゆかりもない新天地、水戸へと引っ越してきました。それが、2009年のことです。

農作物のおいしさと安さに感激 毎朝メロンをまるごと味わう幸せ

水戸に住んで10年以上が経ちますが、今でもいろいろな意味でとても暮らしやすいまちだと実感しています。大阪で教師をやっていたときは、街路樹さえもないような大都会に住んでいましたので、水戸の豊かな自然には心身ともに癒されています。少し足を延ばせば、海にも山にも行ける環境はとても貴重です。スーパーなどの駐車場も、大阪市内と違ってほとんどが無料で、時計をにらみながら「あと10分で出ないとお金がかかる！」といった気ぜわしさもありません。何より農作物が本当に美味しくて、しかもとても安いのです。



ビーズ刺繍作品を制作中の片口さん。作家活動は、agekojapanの名前で行っている。

たとえば、茨城県の名産のメロン。旬の時期に直売所に行くと、ちょっとキズがあったり形が悪かったりするものが、1個300円ほどで手に入ります。うちでは、毎年その季節になると「箱買い」をして、冷蔵庫をメロンで埋め尽くすことが恒例となっています。毎朝、そのメロンを半分に割り、スプーンですくって味わう瞬間。思わず、「幸せだねえ」という言葉がもれます。

孤独感にさいなまれる中で 救いとなった市の子育て支援制度

子育ての観点から水戸を見ると、総じてとても子育てしやすいまちだと思います。ベビーカーを押していても危ないと感じる道はほとんどありません。

市の子育て支援制度も充実していると思います。中でも特にご紹介したいのが、「水戸ファミリー・サポート・センター」という制度です。これは、同センターに登録している方の



水戸芸術館の噴水前で。休日には家族4人で水戸芸術館や茨城県近代美術館へとよく足を運ぶ。4人でワークショップに参加することも。

お宅に子どもを連れて行き、預かってもらうというものです。知らない方に子どもを預けることに不安を感じる方もいると思いますが、私自身が同様の制度で育った経験があり、利用することに抵抗はありませんでした。むしろ、周囲に知人が少なく孤独感にさいなまれていた当時の私にとっては、そういったいわゆる“他人”に親身に接してもらえることが、本当に心救われる体験となりました。子育て支援については、「広報みと」にも詳しく掲載されていますので、ご覧になって自分に合った場や制度を活用されるとよいと思います。

市内に2つある美術館の存在が刺激に クラフトマーケットも全国トップレベル

水戸市内に、水戸芸術館と茨城県近代美術館というアートの拠点が2つあることは、美術を学んだ私たち夫婦にとって大きな刺激になっています。企画展は毎回観に行きますし、どちらの施設もワークショップを積極的に開催しているので、子どもたちを連れてよく参



鳥などの具体的なモチーフを刺繍する際には設計図を用意することもあるが、たいていの場合は、設計図なしで直感的に刺繍していくという。

MITONOTE

みとで働く、みとの暮らし

加しています。子どもたちよりも私のほうが熱中してしまい、子どもたちにあきられることもあるくらいです。

大規模なクラフトマーケットの存在も、水戸の大きな魅力だと思います。

毎年春と秋に開催される「あおぞらクラフトいち」と、残念ながら2019年を最後に終了してしまった「マルシェ・ド・ノエル」。この2つのマーケットは、本当に質が高く、全国でも間違いなくトップレベルです。水戸では私の年代くらいの女性のクラフト作家たちがとても元気に活動しているのですが、それは、この魅力あるマーケットの存在に起因する部分も大きいのかもしれません。

大阪から移住し、一人の知人もいないところから、少しずつ様々なイベントに出る中で顔見知りが増え、今では展示会を一緒に開催する作家仲間もできました。私にとって友だちという関係を超えて“仲間、”といった存在です。アート関連の情報を交換しながら互いに刺激し合える人たちに出会えるのは、私の水戸での生活に欠かせない彩りとなりました。

これまでに、金属やガラスや陶器の作品を手掛けてきましたが、それらは資材や機器が



片口さんが“仲間、”と呼ぶクラフト作家の皆さんと。彼女たちの関係性が、片口さんの創作活動に刺激と喜びをもたらす。

MITONOTE

みとで働く、みとの暮らし



水戸市内の中学校と高校で美術の非常勤講師を務める。自身の経験を生かし、美術の道を志す生徒が目標達成への具体的な道筋を描けるよう助言する。

大きく、転居してきたばかりの場所で年子の子供を出産した私には子育てしながら制作することが難しく感じました。やめてしまおうかとも考えましたが、やはりものづくりをやめることはできず、家での少しの空いた時間にできる技法を探した結果たどり着いたのがビーズ刺繍でした。素材は違えど、つくる喜びに変わりはありません。また素材が変わっても、作品制作はこれからもずっとこの水戸で続けていくつもりです。

今は並行して小学生対象の夏休み絵画教室を開催しながら、水戸女子高等学校と茨城中学校・高等学校で美術の非常勤講師を務めています。将来はギャラリー併設で中高生対象の工芸教室を開けるような場も持ちたいと思っています。中高生になると学習塾やスポーツ教室に費やす時間が多くなりがちですが、受験も成績も関係なく、ただひたすら作品を制作することに没頭する時間も、たまにあるとよいと思うのです。開講日は半年に一回くらいを想定。だから商売にはなりません、そこで美術分野へ進みたいという子がいたなら、その子の目標に向かって背中を押せる存在になれたらと思っています。



Instagram : @agekojapan

Q&A

Q1 水戸市内でお気に入りの場所を教えてください

水戸芸術館と茨城県近代美術館。周囲を散歩するだけでも気分がよくなる場所です。

Q2 水戸市で生活する中で、便利だと感じることは？

新鮮でおいしい食べ物がリーズナブルに手に入ること。新鮮な農作物や海産物をつかった料理を日常的に食卓に出せることは、とても贅沢なことだと感じます。

Q3 移住を考えている人にお勧めしたい水戸市のよさは？

知人が一人もいない中で子育てをした私にとって、市や民間が提供するさまざまな子育て支援制度が救いとなりました。水戸は、安心して子育てができるまちだと思います。

水戸市の移住支援

○移住のご相談・お問合せ

ご相談・お問合せは、窓口、オンライン、電話、下記リンク先の専用フォームで対応いたします。
暮らしの様子や住まいのことなど、お気軽にご連絡ください。

TEL：029-350-1580（直通）

専用フォーム：https://s-kantan.jp/city-mito-ibaraki-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=26359

業務時間：午前8時30分から午後5時15分まで（土・日曜日、祝日、年末年始を除く）

※窓口、オンライン、電話でのご相談をご希望の方で、上記業務時間内のご相談が難しい場合は、その旨を専用フォームにてお知らせください。

○いばらき暮らしサポートセンター

都内で相談できる窓口です。

所在地：東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階

TEL：080-9552-5333、03-6273-4401

業務時間：午前10時00分から午後6時00分まで（月・火曜日、祝日、夏季・冬季休業を除く）

詳しくはこちらをご覧ください↓

